令和２年度　第１回
大阪府立豊中高等学校 学校運営協議会 議事録

日時　令和 2 年 2 月 14 日（金）17 時 00 分～18 時 00 分
出席者　協議会委員　山﨑 彰・三木 俊博・立花 真一・宮坂 政宏・尾崎 理人・田村 知子
　　校長　　平野 裕一
　　事務局　　藤縄 真敬・松本 恵美子・上林 卓也・安福 一貴・城台 祐樹

次第
１．校長挨拶
（GLHS 評価審議会の結果）評価 AA　２年ぶり２回目　進路実績だけでなく、さまざまな取り組み、教員育成もうまくいっている。

２．会長挨拶

※会長決定→異議なし

３．協議・報告
(1) 令和２年度　学校経営計画について
（校長）
・中期目標→進路、グローバル、働き方改革の３本柱
・コロナで制約があり困っていること
①進路　オープンキャンパスの参加が叶わない。→できるところはオンラインで対応。
②志学　地域でのボランティアもできない。→何らかの形でできる方法模索中。
③学校行事　体育大会中止、文化祭制限ありで計画中、行内大会は拡充（体育大会の分）
④SSH　WWL　海外での研修、国内での研修制約。発表はオンラインで可能。
⑤中学の先生方来校の取り組み中止→動画を作成配信。
⑥進学セミナーも中止→オンラインで検討中。
・コロナ禍を機にオンラインの活用が加速。うまく使っていけるいい機会にしたい。
（委員）
・自学自習の促進について。自己教育力を測る評価指標はこれでいいのか？満足度だけで測れるか？きちんと測れる指標を作ったほうがいいのでは。
・WWL について。創造的なプログラム、カリキュラムがどの程度まで開発できるか
・Advanced Learning Network についてどれくらいできているか
（校長）
・評価指標は検討したい。

・WWL→SGH でイスラムの研究をしていた。WWL で幅が広がったところなので、新しい学習指導要領にあわせて考えていく
・Advanced Learning Network について
①WWL において北野高校が拠点となり、海外ともつながる。
②豊中市と包括協定を結ぶ。桜塚高校、履正社高校などとつながり、豊中市の教育資源を活用、連携する。

（委員）
コンソーシアム化は文科省でも議論されているところ。いろんな可能性を模索していただければ。連携する際はそもそもの目的やカリキュラムをしっかり考えて連携することが大切。

（会長）
同意。そもそもの目的を生徒がしっかり考え、こちらから与えるのではなく、生徒が主体的に考えるのを待つことが必要。

（委員）
豊中高校の教育資源には何があるか。

（校長）
学校、NPO　行政機関、教科書だけでなく、社会とのつながり、すべてのことが学習につながっているということを生徒に気づいてもらう。そのためにいろんな引き出しを用意して子供たちに選ばせたい。

（委員）
SDG s などで掲げていることに生徒が触れる機会がもてれば

（会長）
先生ががんばりすぎるとパンクする。地域等の教育資源、ネットワークをうまく活用して、（先生の仕事量が増えることなしに）すすめていければよい。

（委員）
先生の負担についての問題は重要。地域連携のコーディネーターは？

（校長）
志学のボランティア関係の地域連携は首席。課題研究は課題研究の担当者。

（委員）
豊中市にも担当者がいる？

（校長）
複数の窓口がある

（委員）
負担が分散されれば持続可能かと思う。

（委員）
中学校の現場では「総合的な学習の時間」で悩んでいる。何かよい方法があれば教えて

ほしい。

（校長）

・教員が段取りするより、生徒に悩ませたい。課題研究は課題設定ですごく時間がかかるがそれがいいと考えている。その目に見えない時間を大切にしたい。

・課題研究の担当はそれぞれの教科の指導に生かされている。子どもたち中心の指導法になる。

（委員）

教科の目標と課題研究の目標はリンクするものを作るのか。

（校長）

自分が獲得した知識の生かし方を高校のうちにできる限り取り組ませたいという思いがある。課題研究も各教科も同じ目標を掲げ、担当する教員も同じなのでリンクする。

（委員）

コロナかで自宅学習になったが、自学自習の定着は？

（校長）

データはない。ただ、聞いた話では差が出た。3年は勉強した子が多い。正直1年はわからない。これからのデータを待つ。

(2) 令和元年度卒業生　進路状況について

（教頭）

・阪大の合格者過去最高。京大と神大は少し減ったがほぼ同じ。

・大阪市大の数が減っているのは、前期の層が阪大にチャレンジしたから。

・難関国公立大、難関私大を受験した生徒が増加。

・関関同立合格者数大幅増加→合格者は増えたが進学者は少ない。

・豊高生は、全国的に弱気な中強気でがんばれた。今後も志望を貫く生徒を育てたい。

（委員）

地方国立大、文理を問わない知識をもった生徒はどれくらいいるのか。

（校長）

受験科目を絞ることはさせないような指導をしている。文理については、入試制度のこともあるが、課題研究とうの影響で、文型理系の呪縛から解き放たれる生徒も増えるのでは。

(3) 新しい教育課程の実施に向けて

（校長）

・課題研究の体制づくりから始まり、課題研究の指導が各教科の指導に生かされだした。

・課題研究をベースのブラッシュアップ、大学受験からの逆向き設計。

・GL での評価→リスニング講習、英語ディベート、豊高グローバルスタティーズ、海外

研修で英語力以外のもの、志学、教員研修（アクティブラーニング等)、進学実績。

・教員研修→昨年度は教科横断について、今年はカリキュラムマネジメントについて

・新学習指導要領に伴う豊中高校の教育課程を検討中。学習指導室で、俯瞰的に、そもそもの目的意識をもって進めている。

・限られた枠や時間内で主体的・対話的で深い学びを実現するのが難しく、課題である。

・液晶プロジェクターが入ったが、多くの教員が使いこなし、アプローチが多様になった。目的ではなく手段として使用することを確認している。

・今後タブレット端末を用いた授業やオンライン授業による反転授業についても深めていく。

・新学習指導要領が開始されるまでに観点別評価について着手する（本校の課題)。

・来年度７月、新設される豊陵ホールにて公開授業大会を開催予定。

（委員）

・今後、コロナの第２波が来たらどうするか。私立大学は対応が進んでいるが、地域連携で私立大学からノウハウはもらえないのか。

・オンラインはイメージできるが、講義になるのでは。双方向授業できるのか。

・観点別評価とは？

（会長）

オンラインについてはのちほどの議題にて

（校長）

・観点別は、子供たちのそれぞれの学びに向かっている要素（理解や興味関心、学びに向かう態度など）をさまざまな要素に分けて評価する。小中学校は進んでいるが、高校は少し遅れている。

（委員）

・中学は、６年前から変わっている。中学も昔は点数評価。

（会長）

・大学はどうでしょう？

（委員）

・そういう言い方ではないが、各教員がその目標に応じてやっている。

(4) 新型コロナウイルスにおける臨時休業中の本校の取り組み

（教頭）

状況がめまぐるしく変化する中で、学校としてはブレない方針（学力保障、メンタルケア）を貫き臨時休校を乗り切った。

・学力保障→時間割を作成し、チェックシート作成

・メンタルケア→早く情報を。分散登校の時はすぐに面談。オンラインで悩みをキャッチ。

・分散登校から新しい生活方式へ

・GIGA スクール構想が加速。大容量の情報通信が可能になるように LAN の張替え。
・第２波が来ても対応できるように、Google Classroom を活用したオンラインシステムを構築。

（会長）

さきほどの質問にからめて、オンラインでの双方向授業は可能か。

（校長）

これから検討していかなくてはならない。

（委員）

環境としては整備されてきているのがわかった。ノウハウを持った人が全体に広げていくのが大切。

（校長）

全教科で動画配信ができるところまできている。

（会長）

・オンラインのメリットは、普段なら質問できない学生がメールでなら質問できること。今までにないつながりができた。
・学校に行けない学生（心理的、身体的）を助けられる。
・こういったツールを使って、教育機会の保証をすることが大切。

（委員）

・大学院は、学生が大人なのでネット環境が整っている。
・学校再開後もオンラインを活用する方向で進んでいる。
・豊中高校は第２波に備えて考えていて素晴らしいと思う。

（会長）

オンライン授業の場合、授業料について疑問を持つ保護者もいる。授業の質という定義が大切。どれだけのことをやればオンデマンドでも授業の質を保てるかということを考えていく議論が必要。

(5) その他

（教頭）

令和３年度使用教科用図書選定理由書について

→承認